

光明寺跡共有墓地所在民間信仰石造物



〔登録年月日〕平成元年三月三十一日  
〔種別〕有形民俗文化財(信仰)  
〔名称〕光明寺跡共有墓地所在民間信仰石造物  
〔点数〕一〇基  
〔所有者等〕久我山墓地管理会  
〔所在地等〕久我山四一五〇一八

## 光明寺跡共有墓地所在民間信仰石造物

この石造物群は、共有墓地の入口にある小堂に安置されている。堂の入口に近く総高がいずれも九〇cmほどの享保八年（一七二三）銘の六地藏が、左右に三基ずつある。また、奥壁に沿って、向って左から総高一四五cmの寛文五年（一六六五）銘地藏菩薩立像、総高一五二cmの宝永五年（一七〇八）銘地藏菩薩立像、総高一七八cmの享保四年（一七一九）銘地藏菩薩立像、総高一三四cmの寛文一〇年（一六七〇）銘聖観音菩薩立像の順で安置されている。

これらの石造物は、旧久我山村の地域内にあったもので、原位置から移されてここに集められたものである。いずれも江戸時代中期の標準的な作風を示すもので、時代的にも地域的にも共通していることから、一括して当時の久我山地域における信仰形態や風俗を示すものとして重要である。

光明寺は、この共同墓地の南側にあったと言われ、『新編武蔵風土記稿』の久ヶ山村の項に「中野村宝仙寺ノ末 久盛山彌勒院下號ス」とある。しかし、明治初年に廃寺となった。

### 【文化財所在地】

